地域の活動

十社（とやしろ）小学校の取組

後藤さんは、いなべ市立十社小学校に年に1回行き、全校児童の前でネコギギの生態やいなべ市の保護活動の取組について、わかりやすく説明しています。

十社小学校の子どもたちは総合的な学習の時間など使って、学年別に「川学習」をしています。1・2年生は川遊びなどで川に親しみ、3・4年生になると生き物探しなどの学習、5年生になると、ネコギギについてより具体的に学習していくようになります。

授業で川に入っても、子どもたちは実際にネコギギを見ることは出来ません。けれど後藤さんやネコギギの保護にかかわる人を学校に招いてお話を聞いたり、学んでいくことで、地域の川に希少な生き物がいることに対する理解を深めています。

▲後藤さんの授業の様子。

◀いなべ市中央公民館で特別に飼育されているネコギギ。子どもたちが実際にネコギギを見ることができる貴重な機会。

子どもたちは絶滅の危機にあるネコギギのために自分たちでも何か出来る事はないかと川の清掃活動を行ったり、看板作りなどをしたこともありました。

子どもたちがネコギギを通して、地域の環境に関心を持ち、自分たちが出来ることを考えて行動できるようになってもらえたらというのが先生たちの想いです。

十社小学校の取組のように地域におけるネコギギ保護や河川の環境保全の意識がこれからも広がっていくことが望まれます。

▲5・6年生の「水生生物調査」。ネコギギだけでなく、地域を流れる河川の環境についても学習していきます。

▲京都府亀岡市の「子ども水辺保全フォーラム全国大会」。ネコギギについて学んだことや自分たちの想いを校外でも発表する機会があります。

員弁川水系のネコギギ復活まで

希少なネコギギを今では知らない人も多く、後藤さん自身も子どもの頃、「昔、ネコギギという魚がいた」という過去の話として聞いていたそうです。

再びネコギギの姿が見られるように「飼育増殖」で個体数の増加を図り、ネコギギの絶滅を食い止めると同時に個体群が自然に維持できるように「生息環境」を保全・改善して行く必要性があります。

放流にあたっては、その時期、個体数、成長段階などこれから慎重に検討されていくことになります。また、放流後も生息状況や生態系への影響など継続的な調査が必要です。

将来にわたって継続して取り組んでいかなければならない問題だけに私たちもネコギギを通して、いま一度、河川の生態系全体の保全や自然との関わりなどについて、考えてみてはいかがでしょうか。

今後も適切な人為的措置によって、員弁川水系のネコギギが復活することを期待しています。

▶ネコギギについて学習したことを壁新聞にして発表しました。

写真提供　いなべ市教育委員会
いなべ市立十社小学校